

「この人 26」

守屋八郎 78歳 神奈川県

八木 俳句歴はどのような…？

守屋 八木健さんの「俳句王国」を見ていた平成十一年頃に、NHK俳壇にたまたまとりあげられたのです。すっかり嬉しくなりました、ひとつ本格的にやってみようと著名な結社誌を取り寄せて、会員になりました。そのうち、どうも自分には可笑しい句が向いていると感じるようになりました。しかし、可笑しい句は結社誌にはほとんど掲載されませんので、「俳壇」の微苦笑句欄に投句するようになったのです。

八木 滑稽句をつくる秘訣は？

守屋 普通の句を作っているうちに、偶然にできます。狙ってできるものではありませんね。滑稽句は川柳と違います。川柳は面白いけれども難しい。滑稽句は一見、滑稽句ではない、普通の句のように見えます。たくさん作った中から、そのときには見過ごしていた可笑しさに後日、気がつくことが多いです。俳句を十年余やっていて気づいたことは、これまでの人生経験が裏打ちされてこそ良い句ができるということです。私など、まだまだ若造です。だから大逸れた野望などもっていません。そこそこの可笑しい句ができればいい、と思っています。

八木 それでは、守屋さんご自慢の五句を。

< 代表句 >

朝寝して桃源郷へ足掛り
涼求め河原乞食になりゆく
薬では駆除の効かざる草虱
湯たんぽに妹の足伸びてくる
寒やわが膝に猫でも兎でも欲し